

通出

遠13  
1932



門へ連13  
巻1952  
巻

三十一

あゝ玉のまはかりかたのこゝろのいふふしの

さうかこのまゝにせめて盃ふらふら春のけ

たの二言れはちやいひてまぢのゆゑに

こゝろをよも湯豆腐のまゝにいとちかんと

桂中橋よりゆたかにまゝにまゝもえしぢぢら

修験のまはかりかたのこゝろのいふふしの



鮒を押しきりて鮒成えつるんちきり  
 うやめめそのうーうーう 終よ一冊乃  
 鮒成のうらぬまは新作のうら  
 して四のうらぬまは新作のうら  
 の画とてききふらふをぬ

文の屋茂春

序

此の巻のうらぬまは新作のうら  
 色し波をききぬまは新作のうら  
 其の巻のうらぬまは新作のうら  
 ようなる画をききぬまは新作のうら  
 ハアハト色をききぬまは新作のうら  
 小橋のうらぬまは新作のうら









目録

三人の齋

南禪寺

幽霊

竹田かきり

琴比執子

短冊

狐

天満橋

月夜の釜

菫子のちや

でんがく男

住吉系

柳の枝

あひあひ

鶏卵

瓦火

豆男

寶印

桐の紋

鼓





沖に戸あふの栲法よツケ栲のツゲちる男おのこまであ居いり  
 しがじよのおのちうくツケ栲の留のおのける本を合せ互ひりあり  
 しがま房まとちりナだけるくばり目をあらて  
 りちうちをどれおさまりれ栲文句わらいひつのう後ハ  
 大げんととちり上と下と強動ふ乃が一た又向ひ  
 ちり一ケ栲の留の大通男をり合世双方をる  
 だり換抄とちりちり  
 ○丸ふ納て  
 ちり一いつををびりありろ



とものぶらりりた

第三の  
の  
大通



第二の  
の

第一の  
の

第四の  
の



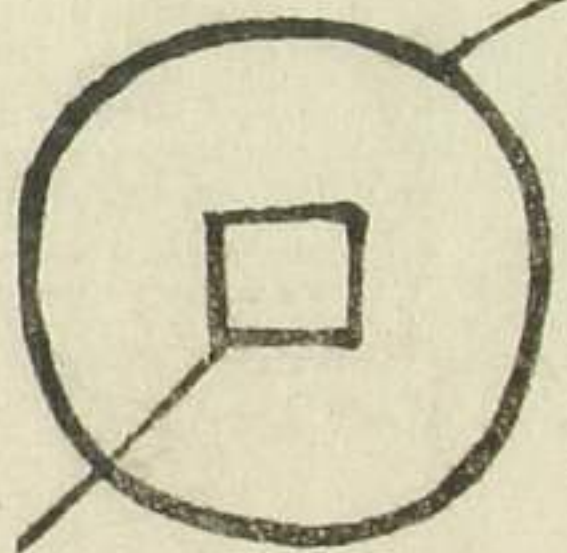
序もあゝべーそのちりみも印ぐーふあゝり  
將軍場つうのふもしふ南禪寺ぜんぜんとつふ大寺おほてら  
まつりやーとを運えんのともれふひごぞす  
ちてたくりせの南禪寺ぜんぜんとつふ大寺おほてら  
いっげどちとちる佛ぶつ寺てらでござりやすと  
同どうふかのおともちりくわしてさきだ  
かんぜんどけいざらハまづ ○ けい  
もござりやすがらやんやん

騎ま破さいちをこといちろくハ  
ふとふもいりせやせんせん大寺おほてら  
が□ふしげどござりやんやんはんの  
ものまゝたづめてその寺てらのち家けかハ  
ぞ家け旨めウイ


序一ハつごよ記す

宗旨ハせんトヤ

第一ハせいぞいの丸



第二ハせん堂

大坂の  陣町よけの毎枚函書のもてまよふハんと

は来する人もさくおほしき事もあるものやをいふと

噂がたれだる男と女と若けいふ事もあるものやをいふと

えといふくさく山もあつたつらむ町とをいふと

ちじてせよとよびけりけりけりけりけりけり

今ハ少し小気味のくさくちれだる事なるをいふと

うくちれだる事なるをいふと

かぎりきんせいのくさくちれだる事なるをいふと

れとハつぎでたつり

こしよき  
四全用

第一つりごみ町

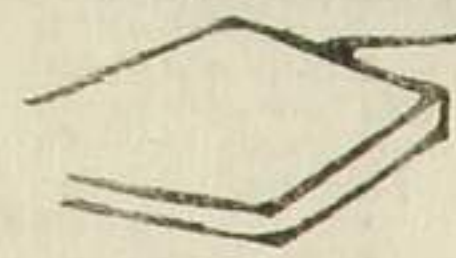
第二より  
樽



第二もじ

竹田かくりの口上

牙



おめどより  
内目をよ  
くくりおき  
ししる茶  
のうらより  
樽あらし  
ます  
テシカラ

第二

あらんま  
えごよ

がらき

斗

第三

〇 ぶが  
はの  
たの  
斗

第四

樽がたの  
ししる

第五

枝の  
ししる  
がたら  
の  
斗

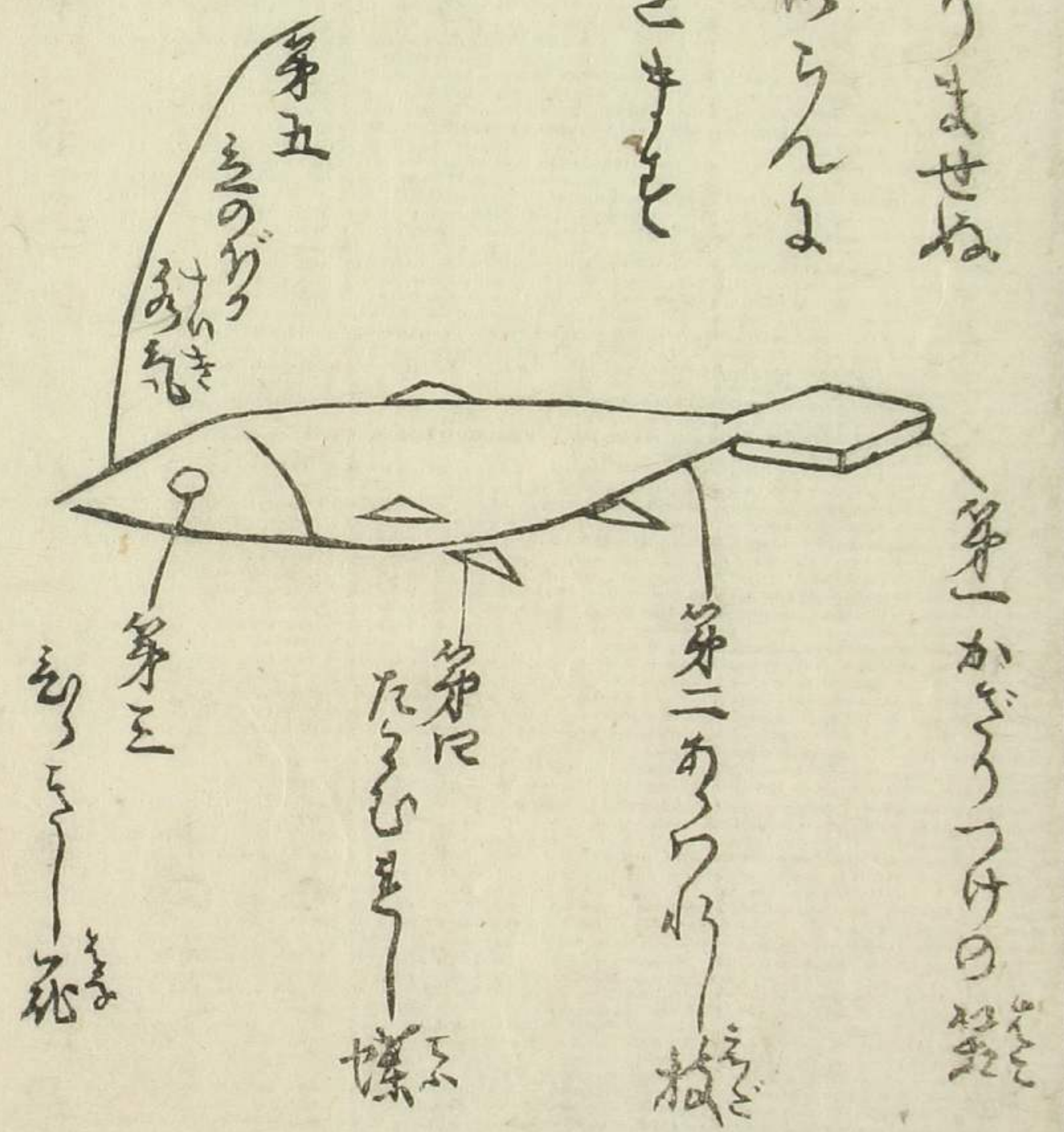
おまはるの

斗

新かろうりませぬ

新とめらんよ

らまきまき



祇屋新地富永町よある小青橋のじすり  
 中とつてぼろりのうみくものゆい  
 ぞきうき子よ志とあげんと幼少より  
 で崎よ舞をとなくせよは身よまの業  
 上達よいびく心今いあつては橋井  
 やのよとよむまんこのまさくくのやの  
 くりぢーくるが年ハ二七のこくくしづ  
 □くらハ白雲をうりとかあめらくく

くる也へ輝も不輝もおしをてくるも  
 あすの晴あつとせゆき紋目くの日栴  
 ハツ月七翁九と廣岩よつ年りかる  
 畚のこしをきとぬ親のしうこびる子目  
 のちのハ親のちしんとは移りものまふ  
 あもも秋お付とこととて我家しりも  
 ぬもめさささよ發出し磨よしりて良日  
 とあつと叔 ■ かねつけとささしよ奇仙

ちがやのお徳が来てもさてもく  
 娘もかひつけが出来さげふし移つけが  
 来たしともやおあさし  
 のさふけさやくとささしとくハテ

あしつぎよ者記



おちろとちろとつめふちろ

おと  
はちろとちろと  
おちろ

おちろ  
おちろ  
おちろ

おちろ  
おちろ

あつ古乃々屋の店よ芭蕉翁の

りりる色ばさる隠居は程冊の虫腹行やど

升ナ原々屋の魚ハイまハ正奉れ大出来物也

金百也でござり升買人の隠居まハあん

まろちまなまのーやナ格自まけやん

せと拾ふハあんまろちでゆたり升まあー

まろち買ちまろちでゆたりまや隠居のまろ

おちろ

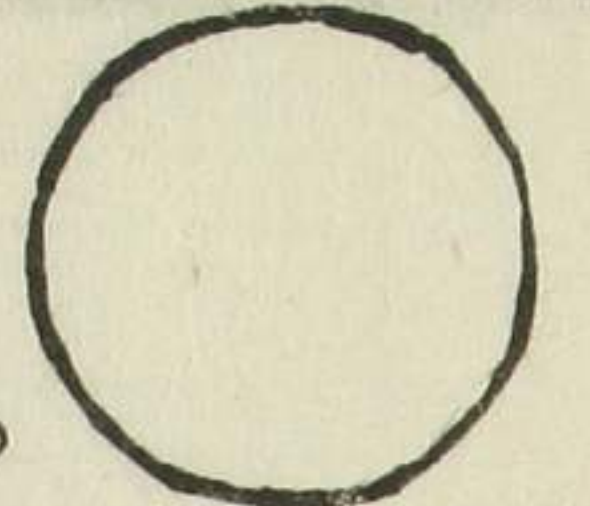
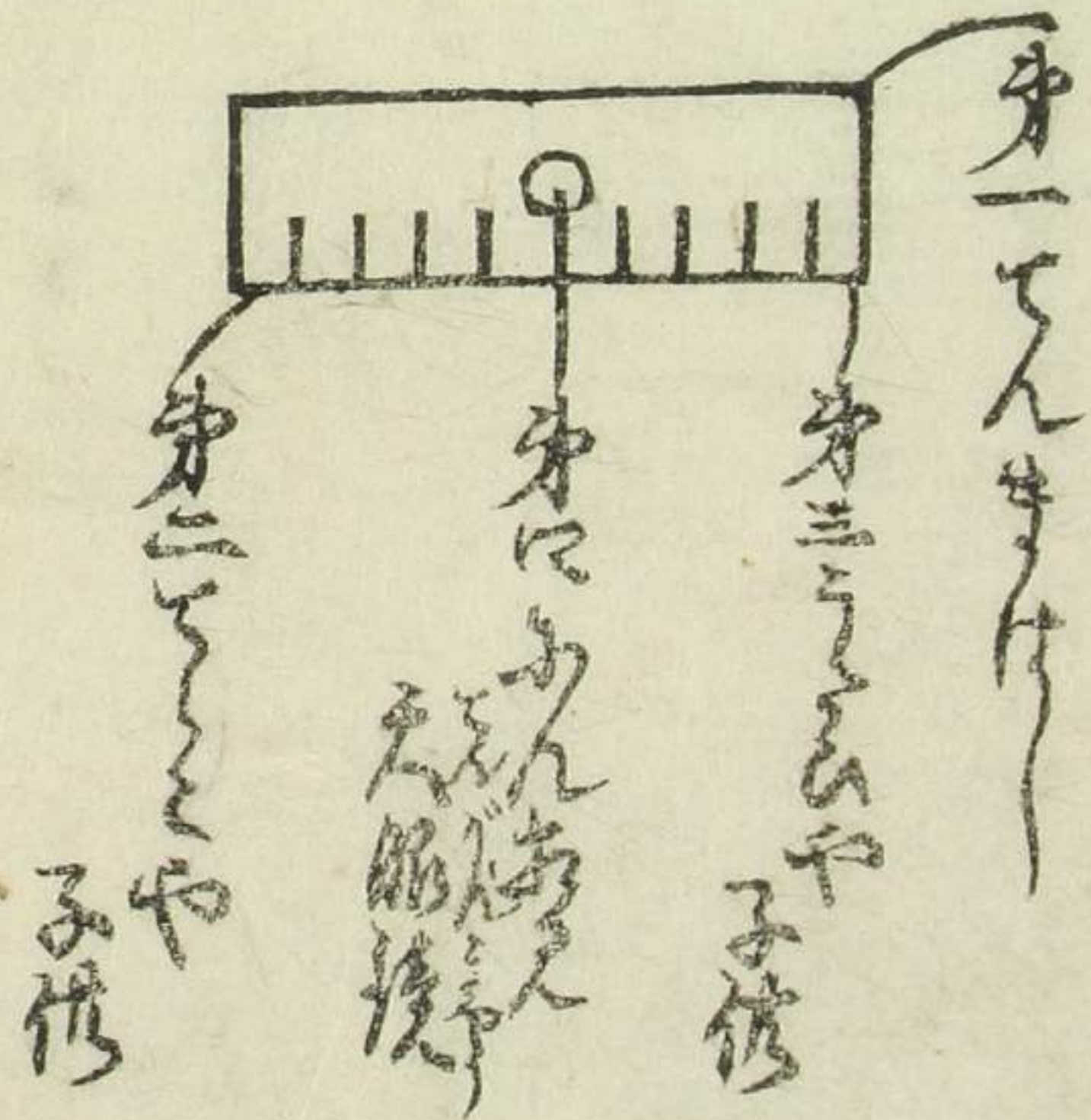
おちろ

おちろ





双方も五方〜あ〜こ



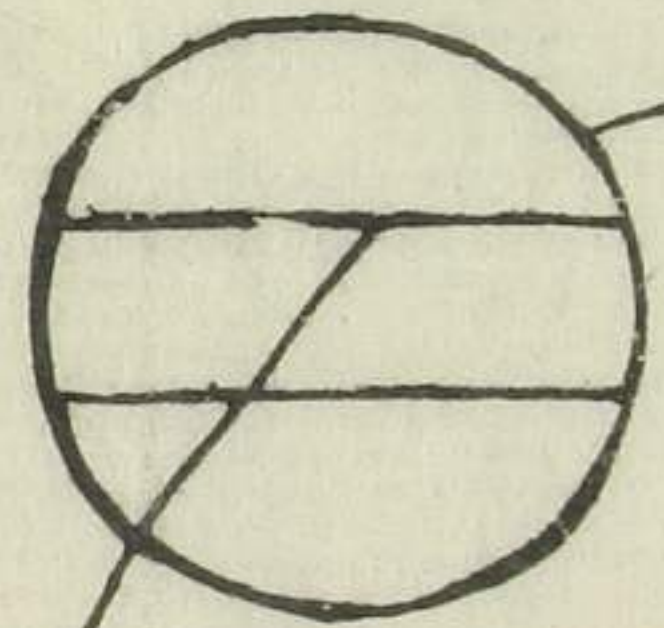
か旅の満月の歌よある若々を望しけ  
 是ハ隣ツグナリの男おとこけらふを振ふるハ〜けバ夕ゆふべの  
 ま〜か月の歌うたよを望のぞむといふ〜と〜いふ〜たをけ  
 きて〜〜〜〜〜男おとこは〜イヤあまの  
 谷やと〜〜〜〜ハお月つきを望のぞむ

あつ〜隣ツグナリの男おとこけらふを望のぞむが  
 う〜〜〜〜〜男おとこの歌うたよイヤあまの  
 花はな〜〜〜花はなよ〜〜〜しらす

同

うゝハの〜とあ〜

才一 徳月



才二 かり〜

才三 履

繩くわの遠とほはあり青梅あおばいのかく来次らいじり呼よ  
 せんせいせんせいのげいこの後のちのこのこのこ  
 するふみするふみされて甚おそろ人目ひとめはさらけを  
 花車はなぐるまふれとまがめて回まわるゝや  
 そあともよもやふねのひととけいふ  
 ちしよ〜ツつききぶぶありてゝのの振ふりり服ふく  
 の丸まるあちり〜やつ〜とありて  
 吐はて〜や〜たぐぬけ〜もえ〜り

来治ハ兼又おぼくちれこちれハ  
 のつらへもちくさうもさうし  
 うらあさうりお後ガつて出カ  
 さしそみくさしそれを花車  
 て大さふ強さ口口さくくさ  
 お医者紀ノ法あんさんさ  
 ともこ人とけしらせよぶま  
 ちく徳あんおえ音と来治ガ

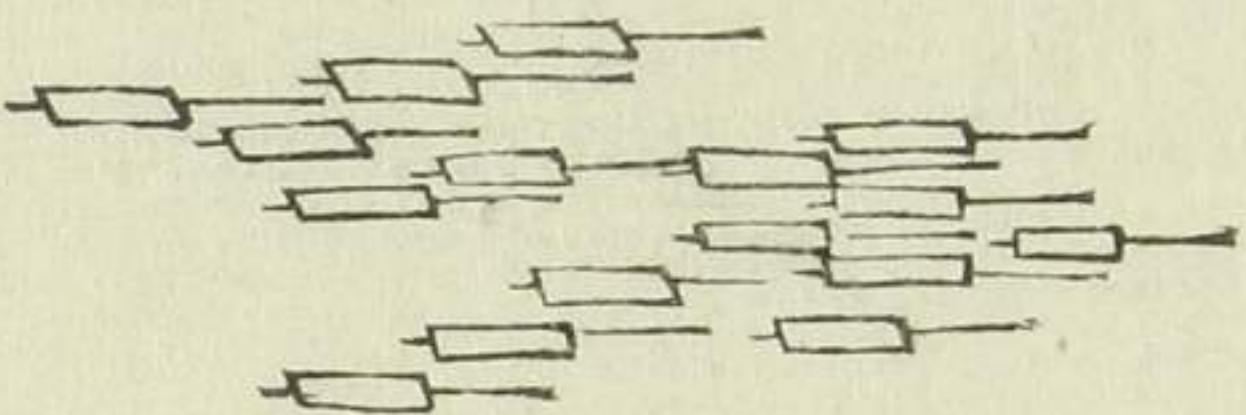
多しを花車あつて振落とす  
 あんまが内服とつて  
 くる  
 ちが  
 ぶと  
 めつてケ振つて  
 かんせけとど  
 法彦光ちが内服と  
 うかぎの眉とせめて  
 ハハア

ね〜ハつごよあつぞく

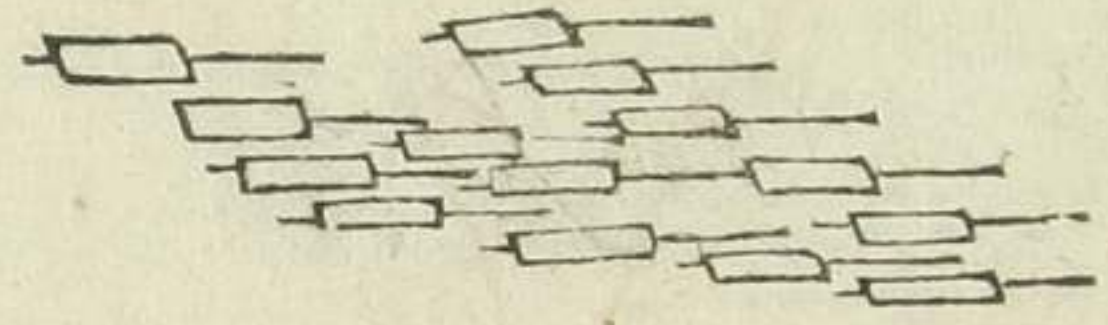


モウこのうへハ年教またそ

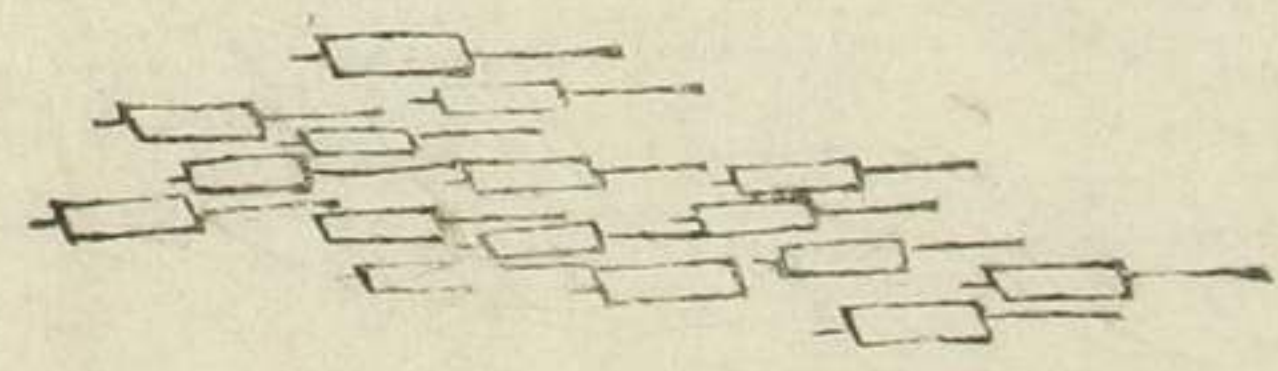
一の  
ぐん



二の  
ぐん



三の  
ぐん



大坂乃根崎の辺邊は □ 一家ありてまうやまノ稻

何の男あり其のよんてんきよくわらと好いといふやと

我が我家とて  
こゝに國もあらず  
其すぐり

あすぐよ  
わらて又  
くそり格

恒吉とて

くがや  
ゆりーよ  
よはどの

道か

そまけい

くこびま

あつとんか

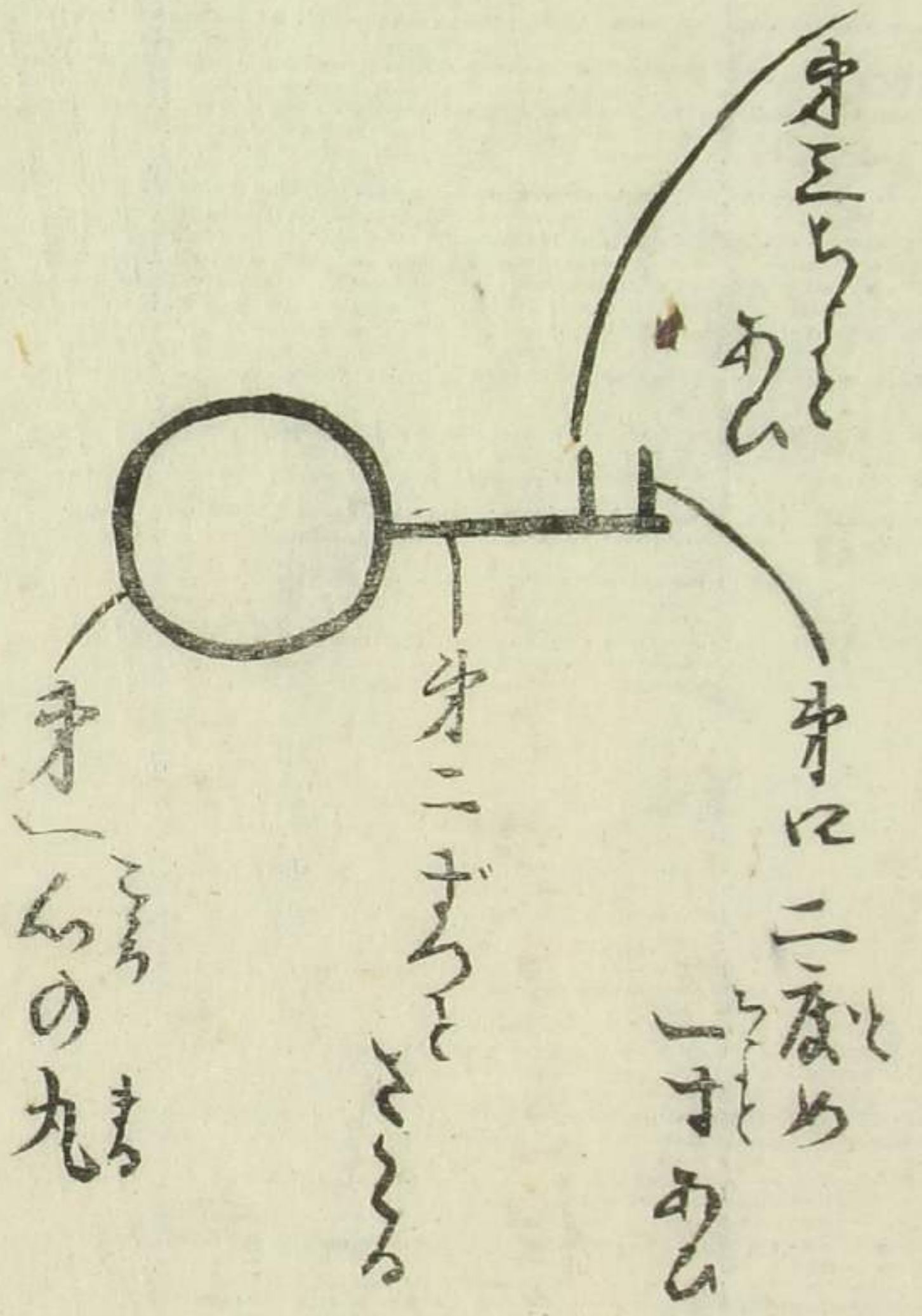
前ーハもぐり







とやめさよちうて



料<sup>アキ</sup>程<sup>リ</sup>ずと此<sup>オノ</sup>男<sup>ト</sup>者<sup>サマ</sup>やの男<sup>オノ</sup>よ ○ 玉<sup>タマ</sup>子の皮<sup>カ</sup>

方<sup>カタ</sup>りふ<sup>ハ</sup>身<sup>ミ</sup>深<sup>コ</sup>る<sup>ハ</sup>切<sup>キ</sup>る<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>やと<sup>ハ</sup>糸<sup>イト</sup>

々<sup>ツツ</sup>と<sup>ツツ</sup>バ<sup>ツツ</sup>者<sup>サマ</sup>やの男<sup>オノ</sup>も<sup>モ</sup>ふ<sup>ハ</sup>玉<sup>タマ</sup>子の皮<sup>カ</sup>方<sup>カタ</sup>り<sup>ハ</sup>切<sup>キ</sup>れ<sup>ハ</sup>何<sup>ナニ</sup>

ん<sup>ン</sup>も<sup>モ</sup>安<sup>ヤス</sup>き<sup>ハ</sup>こと<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>な<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>づ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>

か<sup>カ</sup>や<sup>ヤ</sup>ふ<sup>フ</sup>引<sup>ヒ</sup>つ<sup>ツ</sup>り<sup>リ</sup>ち<sup>チ</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>見<sup>ミ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>く<sup>ク</sup>と<sup>ト</sup>玉<sup>タマ</sup>極<sup>キョク</sup>子<sup>シ</sup>陰<sup>イン</sup>

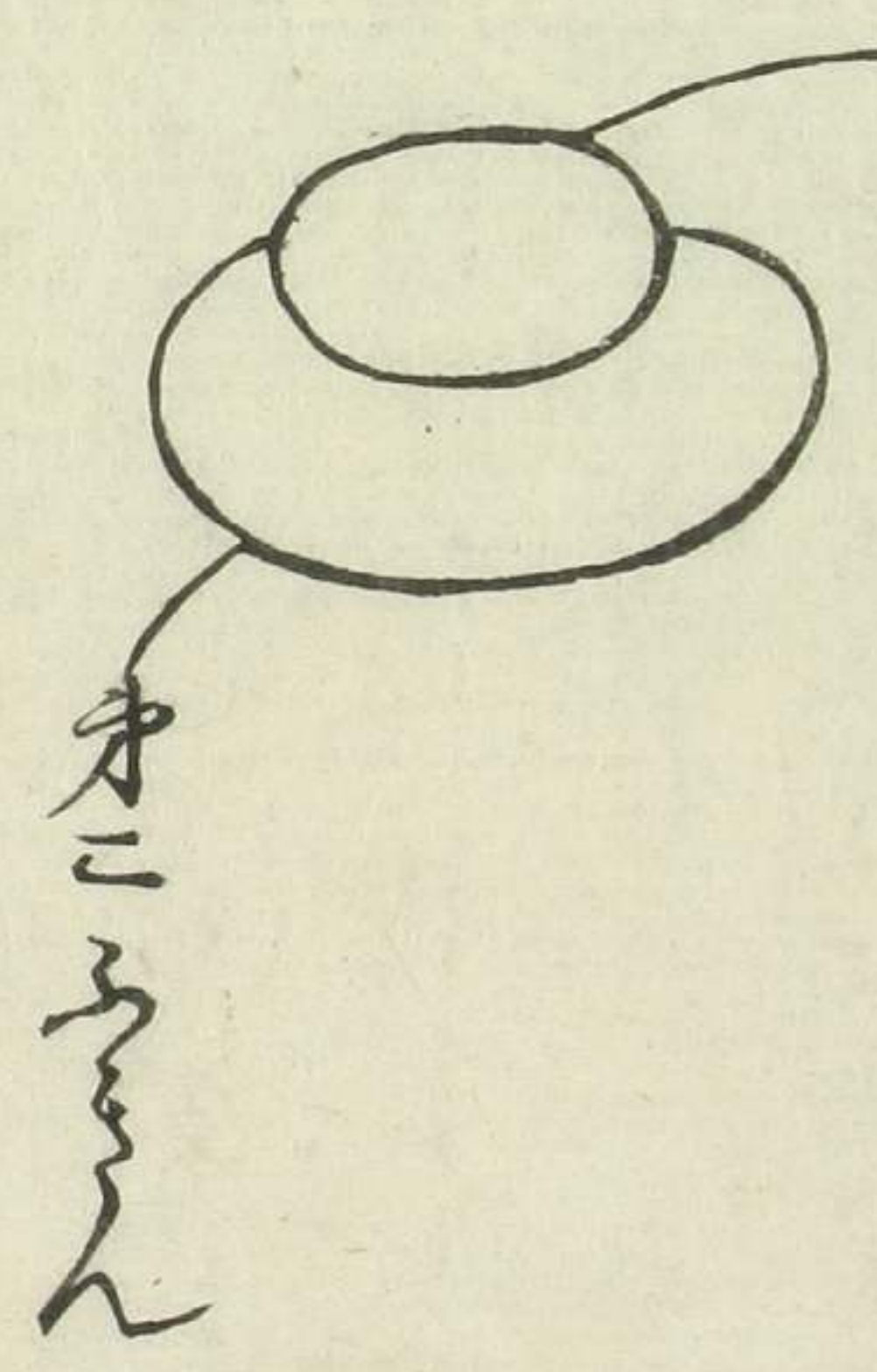
に<sup>ニ</sup>さ<sup>サ</sup>り<sup>リ</sup>を<sup>ヲ</sup>ち<sup>チ</sup>れ<sup>レ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>と<sup>ト</sup>も<sup>モ</sup>ふ<sup>ハ</sup>料<sup>アキ</sup>程<sup>リ</sup>ずと<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>男<sup>オノ</sup>

て<sup>テ</sup>き<sup>キ</sup>ま<sup>マ</sup>こと<sup>ハ</sup>お<sup>オ</sup>ち<sup>チ</sup>タル<sup>ル</sup>ホド

おわり志志津幾よおあ繁

餅ハモラヤシヤ

オシモ子



大坂の町に此家毎よ所役のものハ後多ハとく  
よ火の元用むが中へ入ハハカクテテ花火の  
ハあげはるハ後まじく考へて付置よ何か及よ  
クもむ法がふ花火の鳴のこわろれハ花火の  
の小者もねるもてはるはる  
とあがけむるのこを亦も同くはるはる  
るはる火ととよ町の年暮はるはる解るはる

あーハヤシヤモラヤシ

ちよとをまゝりがまゝい

（オニを斬り）

あざけー死火

カニをねのらげー

よる火

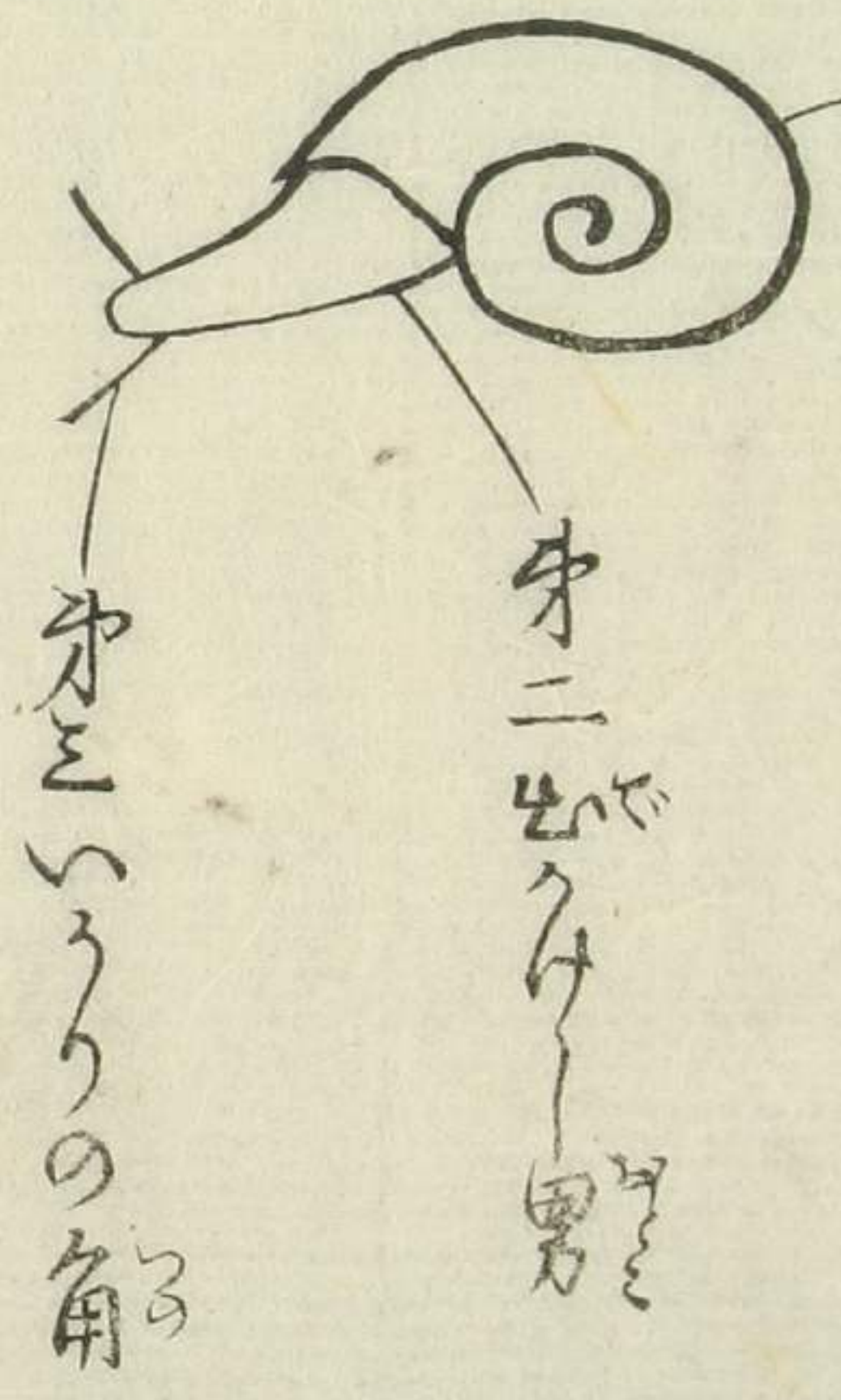
さる象の男けしつてそとく一撃とあつたつがそとよ  
つとほふ女房のまゝとて悟まふく心せんとし



くまふおつてありまようく男のまげまひりま  
いりつとあひいまゝ一付ぬくそとつ田方と  
出さぬつてくれど男もあまらふたぐらゝあ  
とれおつてろいしとくまふ出うけしふとや妙  
象をれとそとぐちとそとて引ぬぐいさりたま  
ふしるうふ角と帯し七罪とれど男もまふモウ  
おこしハつたあし

これうづん

才一公のまづりー女房

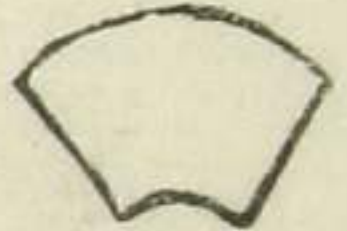


何々大衆の代々々々七時正月を以て金にせん  
 と蓬萊ふかざりける橙とさう  $\Phi$  なるふ縄と付  
 皆引んとまふ程とあれりも私もと小考  
 乳母下女よあるまを多たうり  
 なるふーとれ奥うり旦那の  
 出け指ある付さびーなるふれ  
 ぬーとる御之者や御くまの  
 一とて何々くまの代々の  
 何々何々の代々の

海軍

三七



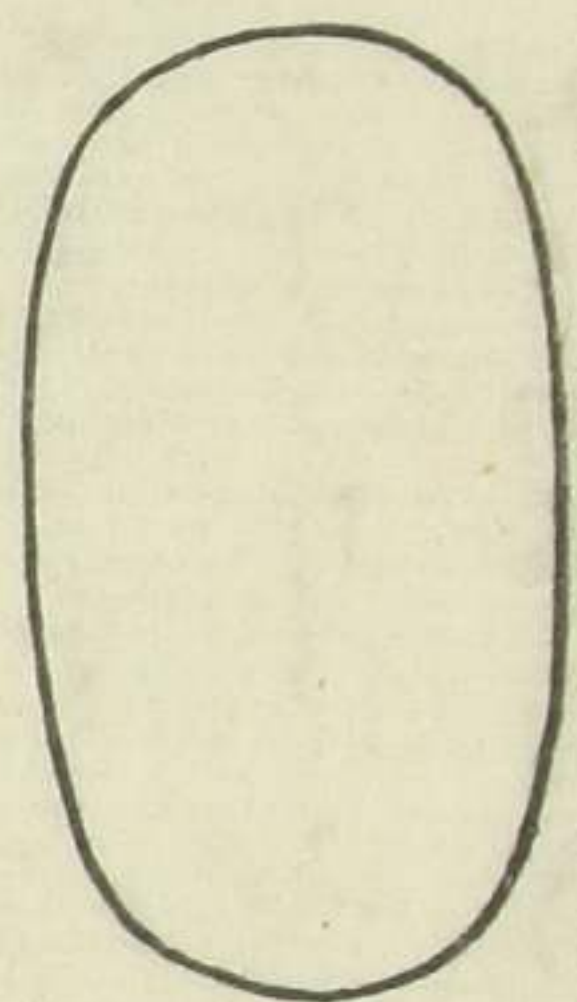
桐のさふせいのそと舞もまきつけておせ  
 フットそれなうまの  舞をもこせ  
 せとせ何事もおまへとけやの庭より  
 せーろよいうちろこしとわあおせいとんと  
 もろろず舞日くすやとろり非ぬる  
 のくまこくおとわの舞を舞作と舞よ  
 りしてつろろ相見候より内ぞんとせと  
 おせいをとけやとろおくふいろろ

けがもいつろせよろおよそ十日  
 2 飛ま中舞ろずいつろしたろよろ  
 お候をろろろろろろろろろろろ  
 ああ人をろろろろろろろろろろろ  
 舞もろろろろろろろろろろろろ  
 といろろろろろろろろろろろろ  
 こそろろろろろろろろろろろろ  
 らんぞ

おろろろろろろろろろろろ



やとろり  
なほ  
と



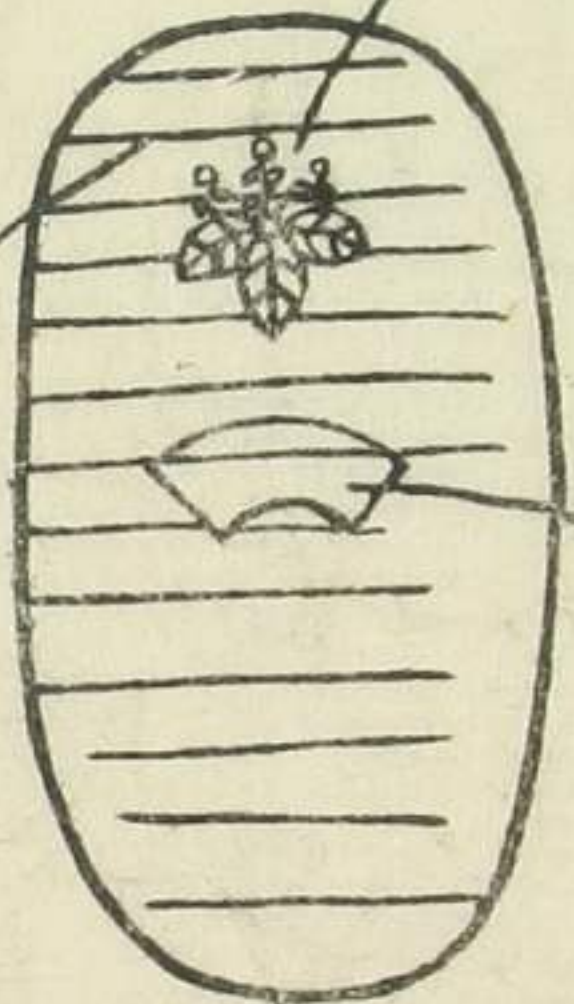
金子  
みちる

才一桐の紋

才二舞の紋

才に属の  
まる

才三けーの紋



才三けーの紋  
才二舞の紋  
才一桐の紋

下系よ小商いとも男大晦日まよをこと  
つまり ○るれほど丸字と借をくらしよ

そのまふ月とくまのしうら  
けくわふもあさり返舞もぬぐく

今ハもや利とつとれぐまこけろか  
るうほどふ銀をめぐりくは借

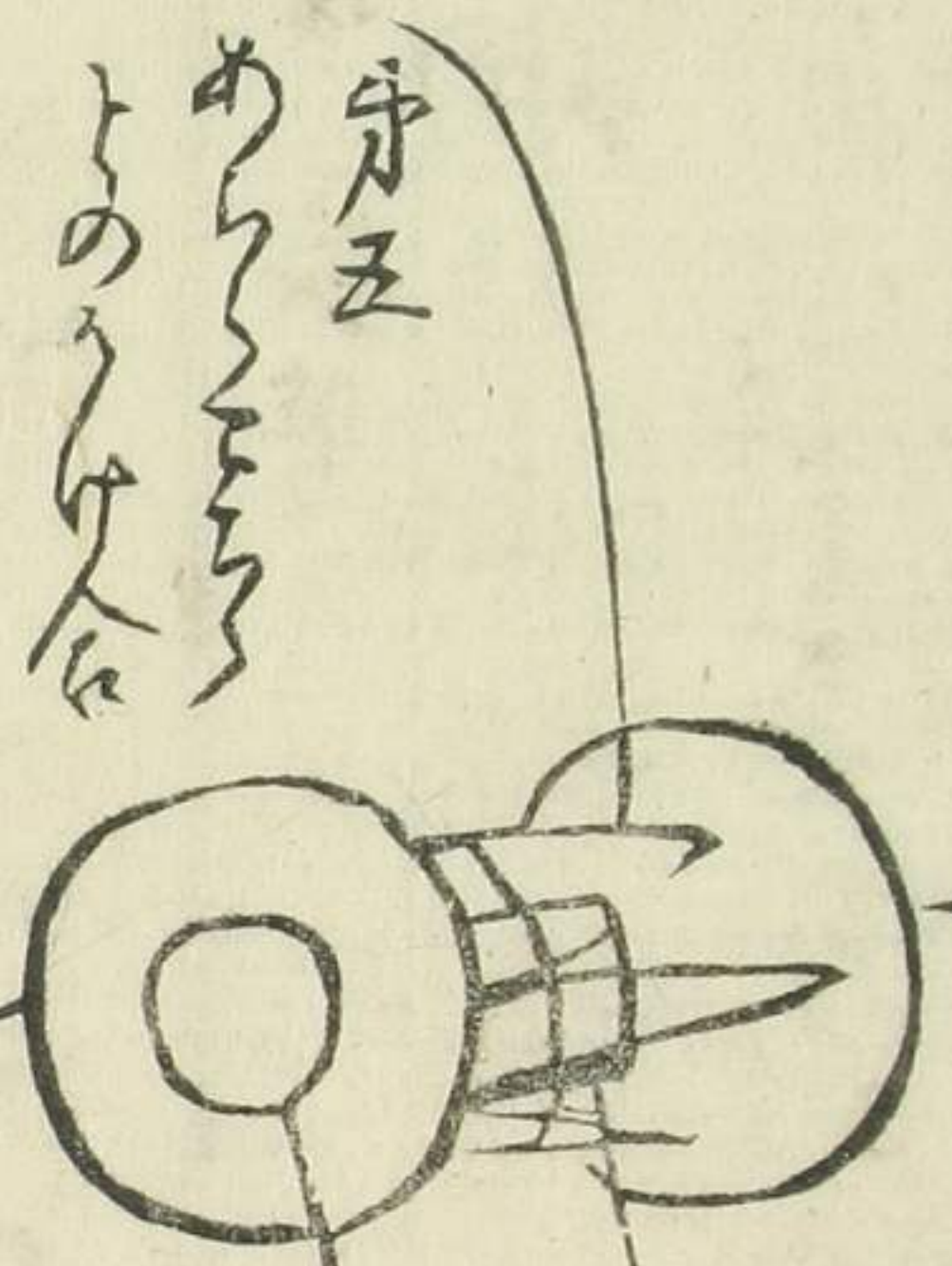
たるかこころいハ志なりは僕使と

ちしきり 借人 とよびつけ 籠まんせ  
 内まへごも □ っやうれ 頼もあし 急ぐ  
 埒あけくごさきよとせ ぞろが 借人  
 もみく 借金 ころまて 帰る 又  
 かやうふあらしとらうと 掛合 けとど  
 ころく丸 ぶらーの 工面 出ま ず ちきよ  
 建 けり けらうらま 借 たる  
 かこらうハ 火 せよ せぐ たる たる せよ

借人 たるうらく ごと 借 たる  
 ちきよ せらうて ころま せらうの  
 けらう せらうの せらう せらう  
 せらう せらうの せらう せらう

おきりハたりでせたりまふ

モウ志くぐます



才三利の利をまき丸

才四諸人の刺

才五

才六

才二元銀子刺の

才一丸

同二編全冊  
近刻

此紙ハ初編より紙の  
をわつち并ありりる紙  
の刺作とびやく紙をて紙と

桂中樓白瑛著并画  
梅枝誰が袖物語

全六冊

此紙ハ俳仙畫巻記ハ梅枝と云ふ女の成長をうけ  
め姉方ハ孝思の爲命の牛も母の仇と云う孝人の紙を  
志してわつちの紙止法印ハ梅枝ハ唐語者ハ紙をうけ  
あつち有枝有花ハあつちをうけりハき草紙ハ今  
の世ハとてハ紙をうけ入ハ紙をうけ

和歌  
卷之十四  
三

文化八年末仲春新刺

平安書林

寺町押小濱下町

清水与三郎

寺町姉小濱上町

殿 為八

和歌  
卷之十四  
三

和歌  
卷之十四  
三

